

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
(公印省略)

**病害虫発生予察特殊報について**

平成29年度病害虫発生予察特殊報第6号を発表したので送付します。

**平成29年度病害虫発生予察特殊報第6号**

1 害 虫 名 : チャノキイロアザミウマ

2 学 名 : *Scirtothrips dorsalis* Hood

3 発 生 地 域 : 宮古島、沖縄本島、石垣島

4 発 生 作 物 : ニガウリ

**5 発生確認の経緯**

- (1) 平成29年5月に宮古島、12月に沖縄本島、平成30年3月に石垣島のニガウリ栽培施設において、チャノキイロアザミウマの発生及び被害が確認された。本種をニガウリへ接種した結果、同様の被害が再現された。
- (2) 本種にはC系統とYT系統が存在するが、沖縄県農業研究センター及び病害虫防除技術センターによる宮古島の複数ほ場で採集した個体を用いた遺伝子検定の結果、C系統が確認された。
- (3) 本種のニガウリへの寄生は国内初確認である。

**6 被害、形態及び生態**

- (1) 成虫の体長は雌約0.9mm、雄約0.8mmで、体色は雌雄ともに黄色である(図1、2)。前翅は灰色を帯び閉じると中心部が縦に黒く筋状に見える。ミナミキイロアザミウマと比較すると、体幅の割に体長が短く小型である。幼虫はふ化直後は黄白色で成長とともに黄色みが強まる(図3)。また、他のアザミウマ類と比較すると動きが俊敏である。
- (2) 本種は葉に口針を刺して葉を傷つけるため、かすり症状の被害や葉脈に沿った被害を引き起こす(図4、5)。多発すると葉の奇形や芯止まり症状も併発する(図6)。
- (3) C系統の寄主範囲はこれまでにマンゴー、ピーマン、トウガラシ、チャ等が報告されている。両系統の形態上の区別は不可能であり、遺伝子診断を必要とする。

**7 防除対策**

- (1) 施設では出入口や側窓を0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、葉への被害がないかよく観察し、早期発見・防除に努める。
- (3) 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



図1. 成虫



図2. 葉裏に寄生する成虫



図3. 2齢幼虫



図4. 葉脈に沿った被害



図5. 葉のかすり症状の被害



図6. 芯止まり

---

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★  
TEL:(本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933  
ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>